

大阪大学 薬友会だより

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-6 大阪大学薬学部内 大阪大学薬友会

大阪大学薬学部周辺のこの1年の動き

大阪大学薬学研究科長・薬学部長 今西 武 (15期)

前回の「薬友会だより」に「薬学研究科長就任にあたって」を書いて既に1年が過ぎようとしています。年齢を重ねるにつれ、一年一年がより速く過ぎ去っていくようです。何はともあれ、薬友会会員の皆様に、この1年の大阪大学薬学部周辺の動きについて簡単に報告させていただきます。

今、国立大学を取り巻く環境は大きく変化を遂げようとしています。言うまでもなく、独立行政法人化への確実な動きです。最新情報では平成14年度にも国立大学の独立法人化が正式に決まり、15年度から順次(?)移行がスタートする方向で検討されており、そうなれば大阪大学はその早い時期に独立法人化に進むものと思われる。法人化後の詳細な青写真は明白ではありませんが、来るべき時期を見据えた遺漏のない準備を整えておく必要があります。

大阪大学では、数年前から「大学院の重点化」を理学部を発端として進め、平成10年度には我が薬学部が、そして平成12年度の歯学部と人間科学部の大学院重点化によって10学部全体の大学院重点化が完了しました。前回の「薬友会だより」でも触れましたが、大学院の重点化の目指すところは、これまでの学部中心であった組織を大学院中心に移すことによって教育研究活動をより高度化先端化しようとするもので、その精神が活かされるか否かは我々の努力如何に依るものと承知しております。重点化後の大阪大学は、学部・研究科の枠を超えた再編成の様々な構想が一方ではありますが、薬学部・薬学研究科は薬学としてのアイデンティティーを明確にしながら来るべき「ライフサイエンス」「遺伝子」の世紀に即した組織の的確な改革拡充を目指すべく努力を重ねていく所存です。

昨今、薬学部の6年制問題が様々に議論されておりますが、いわゆる、4プラス2年制が現時点では主流(少なくとも国立大学では)となっております。これは学部4年間で1カ月の病院実習を含む薬学コア教育を行い、従来通り卒業と同時に国家試験受験資格が与えられ、その後、大学院修士課程で臨床薬学コースや専攻において薬剤師高度職能教育を実施するというものです。現在、殆どすべての薬系大学の大学院において、臨床薬学や医療薬学のコースや専攻があり、我が大阪大学においても、大学院重点化を契機に薬学研究科に臨床薬学コースを設置しており、数名の院生が在籍しています。また、学部の病院実習を平成13年度からこれまでの2週間から1カ月(4週間)実習にするなど、薬剤師教育にも力を入れてきています。因みに、本年3月の薬剤師国家試験の新卒者の合格率は87%を超え、全国平均とはほぼ同じレベルまで上がり、国立大学14校中7位でした。4~5年前、ワーストであったことから予想もしていなかった(?)躍進ぶりで、「薬事日報」がわざわざ取材に来たほどですが、これからも引き続き薬学コア教育の充実に力を注いでいきたいと考えております。今や待ったなしの独立行政法人化の流れに加えて、平成13年度からは第10次国家公務員削減計画(10年間で10%削減)がスタートしようとしています。急激な社会状況の変化の渦中であって、小さな組織の「大阪大学薬学研究科・薬学部」が、その流れに呑み込まれることなく、新世紀にも立派に発展を遂げ続けて行けるよう教職員学生が一丸となって尽力していきます。薬友会会員の皆様!母校を温かく見守っていただくとともに、今後とも何かにつけて宜しくご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

薬友会総会のご案内

薬友会会長 林 信一

薬友会総会および懇親会を下記のように阪大吹田キャンパスで行います。多数の参加をお待ちいたしております。

◇日時:平成12年11月25日(土)午後2時から4時まで

◇場所:大阪大学薬学部2号館(本部前から徒歩5分)

◇会費:3,000円(懇親会費用 当日受付)

- 終了後、希望者には薬学部の見学をしていただきます。
- 吹田キャンパスの阪大本部前行きバスが北大阪急行千里中央駅(阪急バス)、およびJR茨木駅と阪急茨木市駅(近鉄バス)から運行されています。車でおいでになる場合は土・日曜日は正門および西門が閉鎖されていますので東門(付属病院への入口)あるいは千里門(微研・工学部への入口)からお入り下さい。薬学部周辺の駐車場をご利用下さい。
- 同封のはがきにて9月15日までに出席のご返事をお知らせ下さい。ご出席の方に改めてご案内は致しませんので、ご留意下さい。

新任教授

八木清仁(24期)



平成12年3月1日付をもちまして大阪大学大学院薬学研究科生体機能分子化学分野を担当することになりました。と言いましても学内にいらっしゃる方以外はどのような研究室か全く想像がつかないことと思います。当分野は旧薬品製造工学講座(通称工学)が平成10年4月の大学院重点化の折に名称が変更となったものです。初代教授の三浦喜温先生が平成6年3月に、そして二代目の溝口正先生が平成11年3月に停年退官され、その後任ということになります。

私は昭和46年、大阪万国博の翌年の入学であります。講義を受けた先生、私の当時の旧悪?を知る先生が次々と退官されて学内にいらっしゃらなくなり安堵と寂しさの入り交じった複雑な気持ちが今自分の中にあります。考えてみますと新任とはいっても残された研究人生はそれほど長くありません。何をやっても生来のスロースターターではありますが、西暦2000年を一つの区切りとして飛躍のチャンスをつかみたいと思っております。現在はバイオ人工臓器の開発を目的とした組織工学的な研究を中心に行っており、細胞機能を活性化しうる機能性医用材料の開発、組換え遺伝子導入による外的ストレスに対する抵抗性付与といった目標を掲げております。今後は機能制御のみならず生体外での臓器再生を視野に入れた再生医工学的研究を行いヒト細胞を用いたバイオ人工臓器の臨床応用を目指していきたいと考えています。

当分野は創設以来、他の薬学部にはない独特な研究を展開してきており、その歴代の職員もヘテロな構成であったことは卒業生の皆様もご存じの通りです。「常にヘテロでありたい」という「工学」の伝統をこれからも絶やさずに先鋭的な研究を行っていく所存であります。大学も独立行政法人化を目前にして学問的にも社会的にも高く評価される研究を展開しなければ淘汰される時代になってまいりました。卒業生の皆様が常に誇りに思えるような薬学研究科にするべく他の構成員と共に努力していく所存でございますのでどうか今後ともご指導、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

田村恭光先生を偲ぶ

北 泰行 (院15期)



田村恭光先生のご略歴(大正13年5月15日生)

昭和25年3月 東京大学医学部薬学科卒業
昭和25年4月 三菱化成工業株式会社入社
昭和27年10月 大阪大学医学部薬学科助手
昭和31年12月 薬学博士(東京大学)
昭和33年9月 米国留学(MIT)
昭和34年4月 大阪大学薬学部講師
昭和35年3月 大阪大学薬学部助教授
昭和40年4月 大阪大学薬学部教授
昭和45年4月 大阪大学附属図書館薬学部
分館長
昭和48年5月 大阪大学評議員
昭和50年4月 大阪大学薬学部附属薬用植
物園長
昭和50年6月 大阪大学薬学部長
昭和54年8月 日本薬学会学術賞受賞
昭和56年4月 日本薬学会副会頭
昭和60年4月 日本薬学会近畿支部長
昭和63年3月 大阪大学定年退官
昭和63年4月 大阪大学名誉教授
平成 2年4月 近畿大学薬学部教授
平成 6年4月 日本薬学会名誉会員
平成 7年3月 近畿大学退職
平成11年8月 逝去、従三位勲二等瑞寶章を
授与さる。

本学名誉教授田村恭光先生は、平成11年8月15日脳出血のため逝去されました。享年75歳。

先生は、本学薬学部において薬品製造学講座堀井善一教授に師事され、助手、講師、助教授を経て、昭和40年4月から新設講座である薬品合成化学講座の初代教授に就任し、教育研究に没頭されました。

先生の御研究は、有機化学、医薬品合成化学の領域で多岐に渡っておりますが、特筆すべき功績として窒素および硫黄イリド、硫黄に隣接する炭素カチオン並びに高原子価化合物を利用する新反応や、アミノ化、シリル化等の新反応剤の開発などがあげられ、これらの成果により日本薬学会学術賞を受賞されました。

先生は全国規模の学会における活動においても、指導的な役割を果たされ、日本薬学会評議員、日本薬学会学術賞等選考委員、薬学雑誌・Chem.Pharm.Bull. 編集委員、日本薬学会副会頭、日本薬学会第102年会組織委員長、日本薬学会近畿支部長などを歴任され日本薬学会の運営、発展に大きく貢献されました。さらに、日本学術会議化学系・物理系薬学研究連絡委員会委員として我が国の学術および教育の振興に寄与されました。これら学会に対する多大な貢献により、日本薬学会名誉会員となっております。

田村先生は、常に新しい創造性のある研究に主眼をおかれ、マンネリ化が見え出した研究には興味を示されなくなることが多く、学界において自分自身が“はやり”を創り出したいと考えておられました。研究室では、誰かを捕まえては、“おう、どう、うまくいってるか？それがうまくいって何が面白い？ちょっと話をしようか！”と言って、よく教授室に連れて行かれました。そして、昼食をとるのも忘れて議論し続けられたことも少なくありませんでした。当時は厳しさだけを感じていたこの言葉の中に、今になって我々門下生は、先生の、研究に対して妥協を許さない情熱と誠実さを感じています。また先生は、研究だけでなく他の色々な事に対しても誠実で、うまくいっている門下生とは一緒に喜び、いき詰まっている門下生の為には、いかに対処したらよいか親身になって考えたり、悩んだりしておられました。

先生は、現役時代はお酒とタバコが人一倍好きで、楽しい思い出が一杯あります。定年後は健康に留意され、タバコはやめられお酒も控え目にされていたのに、本当に残念でなりません。ここに先生の30有余年の御指導に感謝し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

(分子合成化学分野教授)

薬学部50周年記念式典

昭和24年薬学部が設置されて50年になるのを記念して式典と祝賀会が平成11年12月7日大阪のリーガロイヤルホテルロイヤルホールで開催された。記念式典は田中慶一教授の司会で行われ、今西学部長の式辞、岸本忠三総長の挨拶に続いて文部省・厚生省からの来賓、廣部雅昭薬学会会頭および藤山朗大阪医薬品協会会長(4期)らから祝辞が述べられた。式典に続いて宮本和久教授の司会で、“Safety & Survival Scienceから見た化学教育の展望”という演題で近藤雅臣名誉教授(2期)による記念講演が行われた。

式典に続いて記念祝賀会が開かれ、北泰行教授の司会で馬場明道記念事業実行委員会委員長から50周年記念事業の概要を含む開会の辞が述べられた。来賓(金森順次郎前総長、熊谷元総長、林信一薬友会会長)の祝辞のあと、本間正明副学長の音頭により乾杯が行われ、懇親会に移った。当日は製薬企業や大学関係者、同窓生など300余名の出席があり、真弓忠範副学長(12期)の閉会の辞で盛況のうちに閉会した。



今西学部長



岸本総長



近藤名誉教授



懇親会



馬場実行委員長



金森前総長

12期同窓会

佐方由嗣(12期)

我々12期生は、おおむね3年毎に一泊二日の泊りがけの同窓会を催している。

私の記憶によると、卒業後ずっと母校にいる西原君の発案により有馬で行ったのを皮切りに、瀬田、宝塚、比叡山と続いて今回が5回目である。今回は二千年代最初の年でもあり、また我々の何人かは還暦を迎える記念すべき年でもあるのでちょっと遠出して盛大にやろうと言うことで、花の万博ジャパンフローラ2000が催されている今日本で一番賑わっている淡路島で行うことになった。

12期生は1960年入学で、この当時は定員60人でしたが、この年は女子が圧倒的に多く男子の倍以上おりまして入学当時は大層戸惑いましたが、こと男子に関しては少数精鋭で優秀なのが揃っているのだと勝手に得心しておりました。この当時は今では想像もつかないことですが、真に政治の時代でありまして、とりわけこの年は新安保条約締結をめぐる世の中が大変揺らいだ年で、学内も騒然たる雰囲気包まれ、とても落ち着いて勉強できる状態でなかったことを覚えています。

1962年からの2年間の専門課程は蜷が池の学舎で学びましたが、この年はサリドマイド薬禍事件が社会問題として大きく取り上げられ世の中を騒がせました。大学の講義においても詳しく紹介され、医薬品副作用の恐ろしさ、薬学研究の重要性を改めて認識させられたものでした。

あれから三十数年、当時の紅顔の美青年達もすっかり円熟の域となり、白秋から玄冬へのスタートに立つ年令となりました。

今回の出席者は21名、今月目度く還暦を迎えた浦尾君の

発声で乾杯を行い宴がスタート、宴の半ばには、真弓君から母校の近況報告があり続いて各自の近況スピーチをいただいた。

今回初参加は、吉田さん(旧姓北川)と平峯さんの2人。

吉田さんは薬学ゼミナールで後輩の国試受験指導に活躍、お得意の話術で皆大爆笑、平峯さんは香川医大において免疫学分野の研究で国際的に活躍、今後の抱負など聞かせていただき拍手喝采。

会社、大学、薬局、家庭あるいはリタイア組から機知に富んだユーモア溢れるさまざまな話が飛び交い、その度に爆笑の渦が巻き起こり、学生気分になり立ちかえって時を忘れて過ごしました。翌日は絶好の天気恵まれ、人形浄瑠璃と鳴門の渦潮を楽しみ、3年後の再会を約して解散となりました。

学友は良きもの、同窓会は昔に帰って本音で語り合える元気の泉湧き出るオアシス。大切に永く続けて行きたいものである。



卒業後30年目の同窓会

北川善啓(18期)

さる2月26日、昭和41年入学生と昭和45年学部卒業生の同窓会を30年ぶりに開催しました。45年卒の18期生の同窓会は20年前に行いました。その後開催するチャンスがなく、20年前とは異なり、長い歴史のしがらみから少し変則のメンバーで合同で開催しました。こだわった点は、同じ時期に勉学等を共にしたことになっている人たちが集まって青春したいということでした。

名簿の整備は多くの方から住所を知らせていただき比較的

簡単にできました。FAXやメールは本当に便利なものと痛感しました。対象者が90名なので出席者は30名前後と予想して準備したのですが、結果は50名と予想外に多くの方に参加していただき、盛会になりました。遠くは関東・中国・四国・九州から、遠路をものともせず来ていただき、また同級生が広い地域で活躍していることを嬉しく思いました。われわれのクラスの特記事項は、戦後のベビーブームの第一陣で入学者数が増えたりして



団塊世代の中では比較的優遇されていたこと、学園紛争で特に薬学部封鎖により大好きな勉強ができず、いまだに向学心の旺盛な人が多いこと、そしてごく特定の人たちがとても仲が良かったこと、その結果メンバーの中でカップルが3組もでき、しかもこの同窓会に夫婦同伴で出席いただいたことです。わが家はいつでも別れる準備ができているというのに羨ましいかぎりです。

話は少し堅苦しくなりますが、薬学部の活躍する分野が広がっています。高齢化社会になるにつれて健康が大きな社会

的関心事になり、“くすり”を適切に利用することでこの課題に貢献できると思います。創薬の分野は今後とも社会に貢献できる分野であり、さらに臨床薬学の分野では従来以上に突っ込んだ仕事ができるチャンスだと思います。この分野は医薬分業の進展で益々重要になってくると思います。患者さんに対面するというのをしっかり意識して、皆さんの力を結集して新しい学問を創っていきたいと思います。

昭和46年大阪大学薬学部入学生同級会開催

山縣ゆり子(23期)

北九州地方で梅雨明けが伝えられた7月15日、ヒルトン大阪で卒業以来初めて同級会を開きました。参加は23名。私たちの学年は、1年生の終わり頃授業料値上げ反対の運動で無期限バリケードストライキに入り、1年近く(?)授業がなく遅れて学部になり、卒業の時は蛍池から吹田への移転のため卒業研究発表が年明けすぐで、後は引っ越しのお手伝いをしたという、授業時間の少ない学年の一つでした。また、国立大学の授業料が年1万2千円であった最後の学年です。そんな学生時代の思い出話から、まだ根強く残るジェンダーの壁を前に働いてきた話、厳しい企業社会、医療や介護の現場、子供の教育費の高いこと等、時の立つのも忘れて話しに花が咲きました。2次会にも関東に帰る人を除いてほとんどが参加、あつという間の4時間でした。最後に4年後の再会を約束して散会としました。話題になったことを

書けば少し深刻に見えますが、同級生は皆とても明るく元気。なつかしい同級生達のパワーを感じた同級会でした。



阪大グッズはいかがですか

阪大生協(理事長:宮本和久薬学部教授)ではバラエティーに富んだ阪大グッズを販売している。従来は全国大学生協連合で一括制作したものにそれぞれの大学名を入れたものだけだった。これでは各大学の特色がなく利用も限られていたが、平成3年近藤雅臣名誉教授が中心となって阪大の新しい学章が制定されたのを機に阪大独自のグッズが数多く出されるようになってきた。大学グッズの定番である筆記具、マグカップ、Tシャツ、トレーナー、キーホルダー、ネクタイなどに加えてマウスパッド、パーパーウエイト、携帯ストラップや風呂敷なども作られている。また今年からは大阪大学が学生から公募した創立70周年のロゴマークが入った記念グッズも新たに加わった。これらの商品は学生だけでなく教員の需要も多く、海外へのおみやげや、来訪者への記念品としてもかなり利用されている。阪大グッズの販売は学内の生協売店に限られているが本年11月の薬友会総会の折には懇親会会場に販売コーナーが用意されることになっているので、一度ご覧になっては……。



阪大創立70周年のロゴマーク。豊中キャンパスの工事現場から発掘された本邦最大のワニの化石「マチカネワニ」をキャラクターにしたもの。

留学生から見た 阪大薬学部

薬学部・薬学研究科には世界各地から20人を越える留学生が来ているが、彼らから見た薬学部の印象を書いていただきました。

朴 勉志(韓国)

(国費留学生／生物有機化学分野・博士課程2年)

私は韓国の全南大学薬学部を卒業後、修士課程を終了し大阪大学に来て現在博士課程2年生です。全南大学と大阪大学は似ている点もありますが、異なる点も多いです。

例えば、日本の大学では一つの研究室に複数の先生がおられる講座制をとっていますが、韓国では一つの部屋に一人の先生しかおられません。全南大学薬学部には17の研究室があり、17名の先生がおられます。さらに、薬学部を卒業して大学院生になる学生は少なく、学部の学生60人中で10-15人ほどしか大学院に進学せず、一つの研究室に多いところでも大学院生が3,4人ほどです。学生数が少ないため他の研究室との交流が

深く、大学院全般的な情報交換や研究内容交換は容易に出来ませんが、大阪大学のように一つの講座に20人以上の学生がそれぞれのテーマをもって体系的な研究をすることは難しいです。

大阪大学は良い研究者を育てる素晴らしい環境が整っており、私もその中で学べることを嬉しく思っています。



(注:全南大学薬学部とは交流協定を結んでいる。)

Ruben Alonso Araya (チリ)

(国費留学生／遺伝情報解析学分野・博士課程2年)

こんにちは。私は大阪大学大学院薬学研究科遺伝情報解析学分野博士課程に在籍するルーベン・アラヤです。南米チリの出身です。留学出発前、私はチリの教授から日本とチリの生活のちがいをよく聞いていました。教授は5年間日本で学生として生活した経験があります。私は学生として第一の目的、勉学に励むことはもちろんですが、もともと日本の文化について興味があり、日本に滞在中にそれをもっと知りたいと思ってきました。最初の2ヶ月はとても大変でした。今ではパオラ(私の素敵なワイフ)も私もだいたいこの国での生活に慣れてきました。

日本またアジア全体のものの考え方(コンセプト)、生活様式、習慣は私たちのそれらとはかなり異なっていると感じています。

本を出て外国で生活する日本人たちがよく日本食レストランを利用する理由がわかるような気がします。彼らは外国にいながらにして日本食をいただくことで自分たちの慣習を体験することができるのでしょう。これは、日本人だけではなく、私たちのような、

自国から出て異国で生活をする者みんなに言えることだと思います。2年間の日本での生活を通して言えることは、この国の人たちはとても優しく、正直ということです。そのような点で日本人はチリ人に似ていると思います。

私の担当教官である那須教授からこんな話がありました。「しっかり勉強してください。でも、ずっと研究室で過ごすのはよくありません。あなたが(学位をとって)チリへ帰国したときにはチリの友達に(あなたが生活した)日本の国とはどんなところか、その文化、習慣などを是非紹介してあげてください。」私は那須教授の言われるとおりにするつもりです。日本での生活は、恐らく、私の人生の中で最も興味深い経験の一つになると思います。



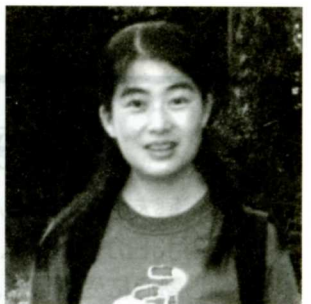
呉 紅岩(中国)

(私費留学生／分子反応解析学分野・修士課程1年)

中華人民共和国での4年間の大学生活と卒業後の数年間の社会人生活で、自分の夢が明確に見えてきました。そして、友人や両親といろいろ相談した結果、その夢を実現するため日本に留学する決意をし、本年4月から大阪大学大学院薬学研究科の修士課程に入学しました。入学してまだ数ヶ月しか経っていませんが、これまで高度な教育研究を行っているとともに充実した機器設備、図書などの情報設備を有する本研究科は、先端的な医薬品分析に関する知識および技術を習得したい私にとって最高の場所だと改めて認識しています。研究以外でも、本研究科、特に、分子反応解析学分野の教職員と学生の皆さんには非常に親切にいただき大変感謝しています。お陰で、

最初に日本に来た時には驚かされた日本の文化や習慣を理解できるようになっただけでなく、研究や日本について新しい発見を経験する毎日をとても楽しく過ごせるようになりました。

修士課程の2年間という期間は、いろんなことを勉強するにはあまりにも短いかもしれません。しかし、薬学という学門だけでなく日本について本研究科で学んだことは、将来中華人民共和国に帰って活躍したい私にとってきっと役立つと思っています。



Andy Setiawan (インドネシア)

(私費留学生／天然物化学分野・博士課程3年)

大阪大学薬学研究科に入学してから、もう三年目になりました。様々な勉強や研究を行って、日々充実に過して、忙しくて楽しいです。先生方の指導を受けながら沢山の勉強が出来まして、ますます研究者の道に入っていますので、この三年間私にとって、非常に貴重な時期と思っています。セミナーや研究発表などをすると、特に沢山の勉強ができました。外国人として、色々な困ることが時々有りまして、研究室の皆さんはよく私の面倒なことを見てくれて、皆さんにとっても感謝しています。チャンスがあるとき、皆と仲良くスポーツしたり、一緒に食事したりしますから、貯

まっている疲労やストレスを解消します。時々、面白い日本語を教えてくださいますから、皆とのコミュニケーションを楽しんでいます。また、日本食は大変おいしくそれも楽しんでいます。来年母国インドネシアの Lampung (ランブン) 大学に帰りますので、皆様と再び会えるように心から祈ります。



David Thompson (アメリカ)

(文部省若手外国人研究者短期研究プログラム研究員
／毒性学分野・Kentucky大学博士課程4年)

For my first trip away from the United States, I don't think I could have picked a better destination than Japan. Japan is a very exciting place. At first, I was amazed by the beauty of the countryside. Peaceful rivers winding between rolling hills covered in green. During my stay, I have had the opportunity to travel a small bit and I have found that the geography of Japan is quite diverse. I have seen the beautiful coastline along the Pacific Ocean, while I have also experienced the sheer power of Fuji-san. I am also fascinated by Japanese culture. Japan is a country where both the old and new are embraced. One can observe very modern metropolitan cities, such as Osaka, yet within these cities many sacred remnants from the past remain, such as the ancient temples and shrines. This honoring of tradition is a very endearing quality of Japanese society. Also, it is such a refreshing change to meet people who are so polite and courteous.

On that note, I must express my deepest gratitude to Dr. Tanaka for welcoming me into the Laboratory of Toxicology within the Graduate School of Pharmaceutical Sciences. The members of this laboratory have been very gracious hosts and have put forth every effort to make me feel welcome. After having many conversations with three staffs and many graduate students, I am very impressed with their level of research. There are many important topics being explored in this laboratory. Of particular interest to me is their ongoing research in the field of metallothionein. I also study metallothionein at the University of Kentucky and one of the reasons for my travel to Japan was to get a first-hand look at the tremendous amount of metallothionein research being conducted in this country. So I am not only very excited to learn about the research going on in the laboratory of Dr. Tanaka, but I am also very honored to be allowed to actually participate, if only for a short while. And I am gaining new and valuable insight. I hope to be able to apply to my own research when I return to the University of Kentucky.

In short, I am very pleased to have been given the opportunity to visit Japan and Osaka University. I have gained a whole new perspective about a country that I had only read about. I have seen many interesting places and I have made many new friends. I have learned quite a lot about Japan and myself. I hope I get the chance to visit again very soon.



薬友会が薬剤師国家試験講習会を開催

薬友会では新しい活動の一環として、会員の薬剤師国家試験対策の一助となるよう講習会を開催した。2月3日から6日間、薬学部の講義室を借用して行われたが、連日ほとんどの4年生と一部の大学院生が参加し熱心に受講した。そのかいあってか現役生の国家試験合格率は近年になく良好とのことであった。

この講習会は今年度も2月初めに開催される予定で、卒業生も本会会員であれば無料で受講することができる。

寄付および終身会費納入者一覧

薬友会では48期生以降については終身会費制(30,000円)をとっておりますが、それ以前の卒業生には、会費に代わってご寄付をいただくことに致しております。ご寄付いただいた会員諸兄弟にお礼申し上げます。引き続き広くご協力をお願いいたします。

下記の一覧は1999年7月1日より2000年6月30日の間にご寄付いただいた方ですが、お名前が漏れている場合は薬友会会計担当委員までお知らせください。なお寄付は1口5,000円とし、同封の振込用紙でお送りいただきますようお願いいたします。

(数字:期数、特別:特別会員)

終身会費納入者

阿部七瀬 (48)	猪原裕康 (49)	本田弘平 (48)	平田万葉 (50)	田中玲維 (52)
伊藤崇志 (48)	大西沙知 (49)	前田真一郎 (48)	保田智恵子 (50)	田邊智子 (52)
伊藤ひろみ (48)	大山浩司 (49)	松浦伸哉 (48)	吉田由香理 (50)	中島美貴 (52)
小野祐一 (48)	鈴鹿絵美子 (49)	松原芳幸 (48)	安藤智紀 (50)	中谷恵美 (52)
川崎ひとみ (48)	鈴木智子 (49)	山中隆幸 (48)	福田雅子 (51)	中西拓也 (52)
幸田良子 (48)	関口文子 (49)	呂 紅然 (48)	井口拓馬 (52)	中村友美 (52)
澤本浩昭 (48)	中嶋裕美 (49)	藁科智美 (48)	岩佐一毅 (52)	名倉啓子 (52)
関口光明 (48)	野田恵美 (49)	笹田 誠 (49)	浦辺大輔 (52)	丹羽貴子 (52)
仙友裕美 (48)	藤井麻友美 (50)	高田哲男 (49)	大庭久幸 (52)	野村陽子 (52)
橘 美保 (48)	布施芳文 (50)	伊勢岡弘子 (50)	梶田尚子 (52)	樋口直子 (52)
西端俊秀 (48)	松浦英里 (50)	井上真理子 (50)	金尾梨絵 (52)	札木 誠 (52)
南畝晋平 (48)	松尾 瞳 (50)	大原康徳 (50)	河野成志 (52)	古塚深雪 (52)
橋本佳代子 (48)	松下浩明 (50)	奥山真紀子 (50)	木内萌子 (52)	松岡 文 (52)
濱口壽雄 (48)	松田重輝 (50)	柿口慶介 (50)	倉知慎之輔 (52)	松野宏美 (52)
樋野展正 (48)	松本京子 (50)	景山潔人 (50)	児玉大輔 (52)	宮本顕子 (52)
福嶋ひとみ (48)	三浦 健 (50)	斉藤恵亮 (50)	小林康孝 (52)	本橋 雄 (52)
二村純子 (48)	三井英華 (50)	新名志津 (50)	佐藤真衣子 (52)	渡辺麻衣 (52)
松井久典 (48)	向 洋平 (50)	関 沙順 (50)	白石篤彦 (52)	
松田安弘 (48)	山口 亮 (50)	田 嘉代子 (50)	住友美賀子 (52)	
丸山美里 (48)	山西佐苗 (50)	富永博章 (50)	高橋恵子 (52)	
山中美緒 (48)	伊藤有紀子 (50)	中木純子 (50)	宅見和浩 (52)	

寄付納入者

金戸 洋 (1)	原田明子 (7)	田中啓嗣 (14)	菊川節子 (26)	小平浩司 (45)
徳家 孝 (1)	俵 湛美 (7)	土屋勝躬 (15)	平尾知子 (26)	竹村充代 (46)
矢内原 昇 (1)	村井弘平 (8)	坂田寿々代 (15)	豊原朋子 (26)	伊丹憲史 (47)
小橋恭一 (2)	岩田善子 (8)	服部征雄 (15)	大岩陽子 (26)	岡本晃典 (47)
入谷信子 (2)	星野那智子 (8)	鶴田康則 (16)	亀田 絹 (26)	清水美帆 (47)
野村幸雄 (2)	中島孝子 (8)	柴地暁子 (16)	山崎千鶴子 (26)	森口浩志 (47)
小山千恵子 (2)	佐道千恵子 (9)	宝居健二 (16)	吉野淑美 (28)	
小泉京子 (2)	紀氏健雄 (9)	細見庸子 (16)	宮代博継 (28)	田中悌二 (院3)
田口貞夫 (3)	比嘉真三 (9)	藤田日出子 (16)	大石雅子 (28)	百瀬雄章 (院5)
牛川久雄 (3)	松浦嗣郎 (9)	大藪新太郎 (16)	森井久美子 (29)	松浦恒雄 (院6)
矢田 登 (3)	中西 勤 (9)	水上文代 (16)	岡部まどか (29)	松本純一 (院9)
三村 務 (3)	西村豊子 (9)	山田富恵 (16)	平岡真由美 (30)	掛谷宣治 (院10)
桂川幸子 (3)	横尾順子 (10)	西條成良 (16)	金子智子 (30)	栗原拓史 (院10)
三好温子 (3)	川路晴子 (10)	五十嵐理慧 (17)	玉田裕子 (31)	山木正枝 (院10)
中谷靖二 (3)	久保田蓉子 (10)	鈴木宏治 (17)	吉竹史子 (31)	中村秀雄 (院11)
伊坂一郎 (3)	木島治子 (10)	鈴木一子 (17)	竹本佳司 (31)	山内 博 (院13)
岩本裕子 (4)	金 相元 (10)	西原 亨 (17)	山本恵理子 (32)	野田弘子 (院14)
末兼千鶴子 (4)	森本俊子 (10)	奈良崎初子 (17)	奥村美紀 (32)	加藤 武 (院14)
峯本嘉造 (4)	水垣兼子 (10)	中西直子 (17)	渡邊総子 (32)	渡部一仁 (院16)
新粉志保子 (4)	西條加奈子 (10)	吉村由美 (18)	勝田倫子 (32)	森本和滋 (院18)
趙 東来 (4)	新田登美子 (10)	吉村義信 (18)	河瀬淳子 (32)	稲田 昭 (院18)
関山常久 (5)	河本征子 (11)	小島広政 (18)	小西麻理 (33)	久保田晴久 (院22)
木津優子 (5)	小山直子 (11)	椿井容子 (18)	山本由香 (33)	山崎 浩 (院25)
高岸 靖 (5)	吉田紀子 (11)	伊藤孝子 (18)	加藤 毅 (33)	鈴木茂生 (院28)
富森 毅 (6)	寺地 務 (11)	平谷 一 (18)	中江貴彦 (33)	西川淳一 (院30)
高山弥生 (6)	高橋祥子 (11)	日吉はるみ (18)	森 薫 (35)	鄭 傳久 (院32)
市川富夫 (6)	細見三郎 (12)	高松典正 (20)	木虎京子 (36)	安藤秀一 (院33)
矢倉弓子 (6)	中村宏子 (12)	兼岩紀子 (20)	山崎充代 (37)	P.Somboonthum (院41)
岩田宙造 (6)	平峯千春 (12)	稲田育子 (20)	邑楽泰一 (38)	王 維奇 (院41)
坪井和子 (6)	木村寿子 (12)	近藤啓子 (22)	川上哲也 (38)	浅井幹登 (院48)
元村迪子 (6)	中田雅子 (13)	橋村恵子 (22)	津田郁美 (40)	川下理日人 (院48)
牧野淳子 (7)	泉 郁子 (13)	河合裕一 (22)	山田智子 (40)	平松 圭 (院48)
日和田ひふみ (7)	山内昌茂 (13)	丸尾真理子 (24)	米今美佳 (40)	前田真貴子 (院48)
牧野善光 (7)	宮本朋子 (13)	小山田昌代 (24)	角田慎一 (42)	木全志保 (院48)
大島邦義 (7)	岩谷邦夫 (13)	竹内純子 (24)	鎌田春彦 (43)	垣内靖男 (特別)
多祢正雄 (7)	才木寿朗 (14)	熊谷恵子 (25)	福田剛史 (43)	

平成12年度大阪大学薬学部公開講座のご案内

平成12年度大阪大学薬学部公開講座「新時代の薬学」が下記の要領で開催されます。

日 時	平成12年10月7日(土) 10月14日(土) 11月11日(土)
会 場	大阪大学コンベンションセンター(大阪大学吹田キャンパス) 1階会議室
講師・演題	10月 7日(土) 13:30~17:00 『臨床薬学業務の展望と課題』 (阪大病院薬剤部) 上島 悦子 『中心静脈栄養(TPN)から在宅経静脈栄養(HPN)へー薬剤師の役割ー』 (箕面市立病院薬剤部) 佐藤健太郎
	10月14日(土) 13:30~17:00 『高齢者の薬物療法』 (阪大院・薬) 山本 勇 『痛みのない注射ー経皮治療システムー』 (阪大院・薬) 久保 一義
	11月11日(土) 13:30~17:00 『身近な病理学』 (大阪府立成人病センター) 西澤 恭子 『細菌感染症を考える』 (阪大微生物病研究所) 本田 武司
定 員	150名(先着順)
受 講 料	5,500円(3回分)
参加申込	1)受 付 大阪大学薬学部庶務掛 (受講料持参または現金書留) 2)受付期間 9月1日(金)~9月22日(金) なお、本講座は日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度対象講座です。
問い合わせ	〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-6 大阪大学薬学部庶務掛 06-6877-5111 (代表) 06-6879-8144(直通) ホームページアドレス http://www.phs.osaka-u.ac.jp

平成12年度薬学部および薬学研究科学生在籍数 (平成12年4月1日現在)

薬 学 部				薬 学 研 究 科				
1年生	2年生	3年生	4年生	修士課程(博士前期)		博士課程(博士後期)		
86	85	87	91	1年次	2年次	1年次	2年次	3年次
86	85	87	91	94	88	33	32	30

平成11年度卒業者の進路

	卒業生総数	進学	企業	病院	官公庁	その他
学部学生	89	64	12	1	0	12
博士前期	73	23	46	1	1	2
博士後期	28	—	12	0	2	14

会員名簿発行のご案内

今回の2000年版薬友会会員名簿は、2000年11月発行の予定です。最近会員数の増大につれ住所、勤務先等不明の会員の方も多くおられます。最新の内容とするために住所、勤務先等に変更がございましたらお手数ですが、同封のはがきにて9月15日までにご連絡ください。

また前回より、元勤務先およびFAXナンバーも掲載するようにいたしておりますので、掲載をご希望される方はお知らせください。また各期のクラス会等での名簿を作成されたときは是非とも薬友会名簿編集委員会の方へもご恵送下さいますようお願いいたします。

なお、同封のはがきで購入を申し込まれますと代金(4,500円)後納でお送りいたしますので、ご利用下さい。

薬友会役員名簿(1996.11選任)

会 長	林 信一(1)
副 会 長	藤井正美(2) 松本光雄(2)
理 事	抱 忠男(2) 新田新治(2) 濱 堯夫(2) 岩田宙造(6) 萬年成泰(9) 眞弓忠範(12) 馬場明道(17)
幹 事 長	眞弓忠範(12)
幹 事	大阪大学薬学部全専任教授 (庶務担当:馬場、会計担当:小林(資)、 名簿担当:那須、広報紙担当:田中(慶))
監 事	大森秀信(9) 西原 力(12)
最高顧問	近藤雅臣(2)

今年度は役員の改選期に当たっております。上記役員以外に各期より1名評議員を選出することになっております。各期におかれましては評議員のお名前を9月30日までに薬友会幹事長宛ご連絡下さいますようお願いいたします。
ご連絡のない場合は幹事会で決めさせていただきますのでご了承下さい。

編集後記

「薬友会だより」第3号をお届けいたします。

創刊号から3年間担当させていただきました。母校の動向や卒業生の様子をお知らせして阪大薬学部同窓生という絆の一助になればと思いつつ携わってきましたが、多忙な本務の間の片手間仕事になり反省しております。次号からは新しい人にバトンタッチし、よりよき広報誌になるよう期待しております。

お忙しい中原稿をお寄せ下さった諸兄姉にお礼申し上げます。

(KT)